
強盗事件 警察やべえ

豊穰 登呂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

強盗事件 警察やべえ

【コード】

N18730

【作者名】

豊穰 登呂

【あらすじ】

ああああああああああああああああああああああ

「このままでいいと思ってるの？ あなたの収入は雀の涙のようなものであって、無価値と同等と言っても過言じゃないというのに」
「馬鹿野郎。雀の涙を馬鹿にするんじゃないよ、というか、雀を引き合いに出して俺を小馬鹿にしようとするその貴様の精神自体が俺は気に食わない。いいか、難しいんだよ。収入を多くするということはね。収入をたくさん得るということは、その代わりに別のものを失うこともあるんだよ。それだつてのに、君はいらついているからつて、俺の収入にケチをつける。そんなの、やつあたりじゃないか、結局。いい加減にしる。黙れ。口を閉じる。眠れ。眠って機嫌を良くしろよ」
「死ね」

「おはよう」

「機嫌は治ったか。ずっと眠っていたんだろう」

「眠れなかったの。心配で」

「何が心配なんだよ。今のままで十分に生きていられるじゃないか。幸福じゃないか」

「でも収入は少ないわ」

「なんで君はそうやって収入のことばかり。結局、金かよ。すべては金だとも思っているのかよ。いい加減にしてくれよ。ロマンを持てよ。二人でこうやって生きて、子供ができれば、十分じゃないか」

「子供を養えるような御身分だとも？」

「わかっているさ」

「そうよ、そうなのよ。結局、あなたはわかっているのよ。自分が世の中を渡っていけるほどの実力がなくて、あなたわかってるのよ。だから、収入が少なくて、子供を産むことも億劫にならな

ければならないほどのよ」

「うるさい。黙ってるよ」

「いい？ あなたが思っているよりも、今の世の中は殺伐としているの。ハートフルな生活というか、ロマンな生活をあなたは求めているのでしょし、それを実現できると思っっているのでしょしけれど、そんな生活をやっていくには、お金が間違いなく必要なのよ。だから、私は、夜も眠れない。私だってね、ハートフルでロマンな生活を求めているのよ。だけど、さまざまな障害があるのよ。それらをすべて吹き飛ばしてロマンな生活を体験するために、実は、金が一番の近道なんじゃないかって私は気が付いている。それなのに、あなたは、それを得る作業に対して億劫で、金を得ることによって何かを失うのが怖いなどというたわごとばかり。弱音ばかり。実際は、能力がないだけなのでしょ？ 金を得るといふ才能にかけているだけのことなのでしょう」

「才能は、そりゃ、人によって違うから」

「だけど鍛えることはできたはずよね、才能を。頑張ればね。今言った私の言葉を理解できるのならね。あなたは理解できていないのよね。私の言っていることを」

「そりゃ、理解はできているよ。けどさ、いろいろあるでしょ。」

男には男の苦悩があるじゃないか。それをすべてわかっていないだけのことなんだよ」

「死ね」

「でもさ」

「なにさ」

「殺伐としながらお金を得ても」

「そんなのわかってる」

「でも殺伐としちゃうさ。こんな世の中だよ」

「じゃあロマンは無理なの？ ハートフルは絵空事なの」

「祈るんだ。願うんだ。人と手をつなぎ合っただ。言葉を紡ぎ合っただ」

「死ね」

「それでも、それでも、いかんですか？ いかんのですか、こうやって祈っては、いかんのですか？ 祈ることは大切ではありませんか？ 願うことは大切ではありませんか？ 願うことは大切ではありませんか？ すべてがハートフルになるように、ロマンにあふれるように、願うことはいちばん重要なことではないですか？」

「願いながら金を手に入ればいいのよ」

「僕が潤ったとき、誰かがきつと貧困する。そんなことがどこかで確実に生じるのに、僕たちは潤うことばかり目をむけて、いいのですか？ 最終的にそれでは、大変なことになるのではないですか？ 自分の望むことばかり望み、それが阻害されたときには全力でその阻害してくる輩を排除する。こんなやりかたをやって、弱肉強食も躊躇なく行ったならば、世界は結局、滅びるのではありませんか。殺伐の先に広がるのは荒野ではないのですか？ それも理解せず、世の中が殺伐にあふれかえろうとしている時に、呑気に、無知に、おのれの望みばかり望んでいることは、恥だと思いませんか？ 最悪なことだと思いませんか？」

「それは一つの狂いというか、人間として不自然なことだと思わない？ 結局、人間はみんな、自分が大切よ。まずは保身よ。だから世界は殺伐とするのは、これはとっても自然なことだと思う。だから、己の希望をずんずん押し進めることは、これは、自然なことよ。当然のことなのだと思う？ それに、世界には救われない存在ばかりがいる。それは次は私たちかもしれない。災害で殺されるかも。通り魔に殺されるかも。そんな中で、己の欲望というか希望に向けて直進していかなかったら、何も得ないままに死んでしまうわよ。だから、己のことをまず重要視しなくちゃ。余裕が出てきてから、そうやって、酔狂な、偽善な、言葉を言いなさいよ。なんか、偽善なのよ、所詮。あなたの言葉なんて、幻なのよね」

「でもな。でもな。でもな。それでも。それでもだろぅが阿呆死ね」
「あなたが死になさい」

「何もわかっていないんだよあほくそ。それでもみんなて手を取り合って生きていく決意がなかったら、世の中は最後どうなるのよ。どうなるのよ。それが怖いと思わないのかよ」

「怖くない」

「なんでだ。そこにはハートフルもロマンも皆無ですよ。常に己が己がといった社会になってしまいかもしれない」

「覚悟しておけば怖くない。拷問される覚悟。喉仏をナイフでかさばかれる覚悟。目玉をくりぬかれる覚悟。こうやってさ、いろんなことに、いろんな恐ろしいことに、覚悟があれば、何も怖くない。ロマンもハートフルも失われた世界で生きること覚悟しておけば怖くない。すべてが、怖くない」

「本当かよ。全員がそんなに強く生きていけると思うかよ」

「だから、世の中は殺伐としきらないのよ。全員が強かったら、覚悟できる人だったら、世の中は殺伐とするとおもうよ。そういう人がすべてではない、臆病に生きる人間がいるからこそ、人の社会は完全に殺伐としきらないのよ。そういうことだと思っの。だから、さ、あなたのいつている、世の中最後はどうなるなんてことは、どうあっても起こらないわよ。今までもこれからも、善人がいれば悪人もいるような社会が、無限に連なっていくだけよ。極端な社会なんて、絶対に存在しえない。常に、曖昧で、あやふやで、答えのない、殺人があれば人助けもある、そんな社会が存在するだけなのよ。その中でどういう生き方を個人個人が決定していくのか、ということではないのよ。それを、理解できたならば、あなたに私が要求していることが、わかるでしょ」

「金を、稼げ」

「愛がないように聞こえるかもしれないけれど、私にとっては、金も愛だからね。なぜならば、金がなければ人は人に食べ物を買ってあげることできないから。だから、金は愛です」

「自分で稼げばいいのに」
「そりゃそうですね、でも、男が金を稼いでもらわないと、困る」
ともあるから」
「それも愛ですか」
「そうですね」
「ふうん」
「うひひ」
「歌を歌うか」
「どついう歌」
「金の歌」
「つまり愛の歌？」
「違う、哀の歌」
「悲しんでんの？w」
「そう」
「じゃあ歌おうか、金の歌」
「おっけー」

金金金金が欲しい
欲望なんかじゃないんだぜ
金金金金が欲しい
愛情だつたりするんだぜ
金金金金が欲しい
悲しみあつたりするんだぜ
金金金金が欲しい
ロマンもハートフルもありゃいいね
金金金金子子供欲しい
金金金金寿司食いたい
金金金金旅行したい
金金金金家が欲しい

僕たちみんなで笑おうぜ

豊かになって笑おうぜ

どこまでもみんな楽しんでもう

金金金金金が欲しい

金金金金金が欲しい

金金金金金が欲しい

金金金金金が欲しい

金金金金金が欲しい

福沢諭吉福沢諭吉

夏目じゃなくて、諭吉です

僕たちみんなで笑い合おう

僕たちみんなで笑い合おう

後日、銀行に強盗が現れました。

頑張って金を奪おうとしていましたが、結局強盗は、警察に捕まりました。

警察はやくざみたいな男でした。強盗はそのやくざみたいな警察官にいじめられて大変だった。

強盗は夫婦だった。

だからどうしたってわけじゃないけれども、問題なのは。

警察がやくざみたいなのきくって、最悪だ、ということでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1873o/>

強盗事件 警察やべえ

2010年10月11日05時11分発行